

N1K2-J GEORGE



72 スケールシリーズ
日本海軍局地戦闘機 紫電改



局地戦闘機 紫電改について

「紫電改」は、昭和15年に計画され、18年12月に初試運用になった水上戦闘機「海嵐」から進化した機体です。「海嵐」の浮力のみならず軍艦をとりつた、海上戦闘機に必要、小型で強力な中置エンジンをつけたのが、「紫電改」。中置エンジンに「紫電改」を改良して進化した、使い易くしたのが「紫電改」です。

「紫電改」は、昭和18年になってから、おもに西日本の防空戦で大活躍をしました。なかでも瀬田英大佐を指揮官とする第343航空隊は、昭和20年3月19日の松山上空の空戦で、米機したグラマンF6Fヘルキャット、ボートF4Uコルセア、カーチスSB2Cヘルダイバーなど戦艦連合の約60機を、紫電改と紫電の合計約60機で迎え撃ち、約1時間の激闘で敵の45機を撃墜、味方の損害12機という戦果をあげ、紫電改と紫電の優秀性を証明しました。

二一型は、全幅 12.00m、全長 9.345m、翼面積 23.5㎡、全備重量 4,340~4,800kg、エンジン 紫二一型 1,990馬力、最大時速 594km (高度 5,600m)、実用上昇速度 10,760m、航空距離 1,714km、20mm機関銃×4、60~250kg爆弾×2、乗員 1。

改三、同機を艦上戦闘機に改装した紫電改四、紫電改甲のエンジンをハ43 2,100馬力に強化した紫電改五(二五型)などがあつたが、紫電改甲のほかは実験機だけで終りました。

ほかに2人乗りの紫電改練習戦闘機があり、これは紫電改の操縦席のうしろに、もう一つの操縦席(教官用)をつけ加えたもので、風防がうしろに延長しているが、胴体の全長は紫電改(二一型)と同じです。

紫電改は、昭和20年になってから、おもに西日本の防空戦で大活躍をしました。なかでも瀬田英大佐を指揮官とする第343航空隊は、昭和20年3月19日の松山上空の空戦で、米機したグラマンF6Fヘルキャット、ボートF4Uコルセア、カーチスSB2Cヘルダイバーなど戦艦連合の約60機を、紫電改と紫電の合計約60機で迎え撃ち、約1時間の激闘で敵の45機を撃墜、味方の損害12機という戦果をあげ、紫電改と紫電の優秀性を証明しました。

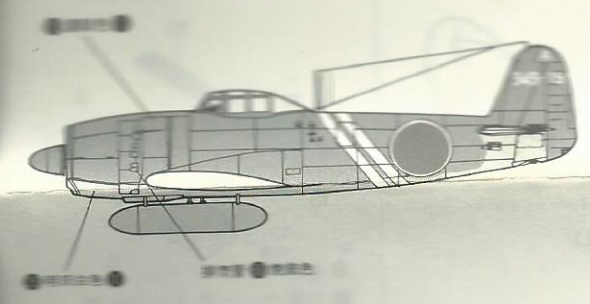
二一型は、全幅 12.00m、全長 9.345m、翼面積 23.5㎡、全備重量 4,340~4,800kg、エンジン 紫二一型 1,990馬力、最大時速 594km (高度 5,600m)、実用上昇速度 10,760m、航空距離 1,714km、20mm機関銃×4、60~250kg爆弾×2、乗員 1。

Marking & Color Painting Guide

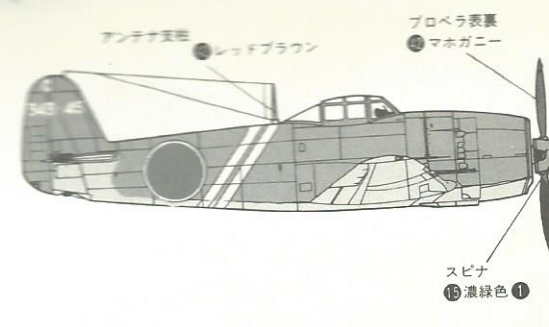
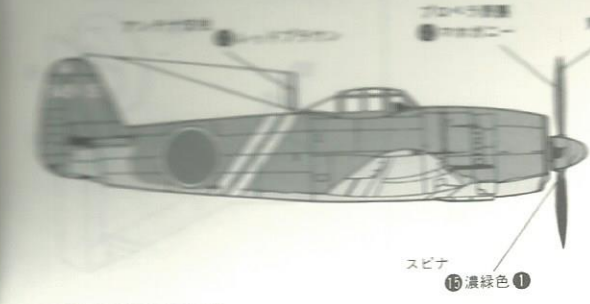
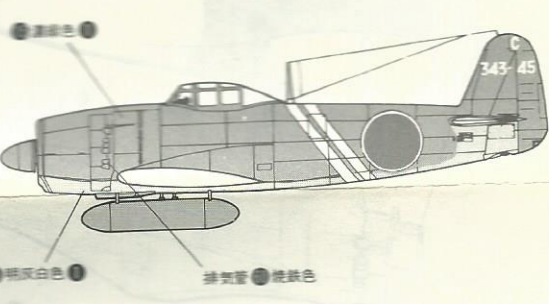
(マーキング及び塗装参考図)

★胴体の二本の帯及び客機大銃機の撃墜マークは任意です。

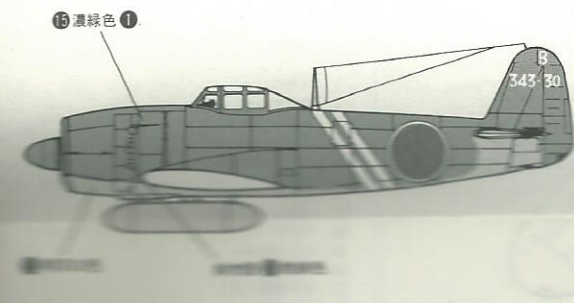
第343海軍航空隊
第401飛行隊 菅野大尉機



第343海軍航空隊
第701飛行隊 鷺淵大尉機



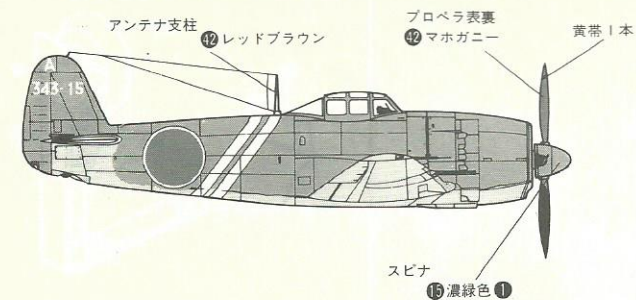
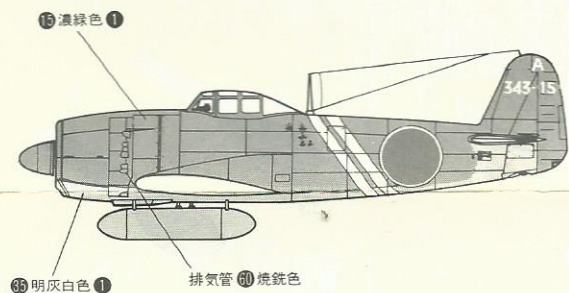
第343海軍航空隊
第407航空隊 林大尉機



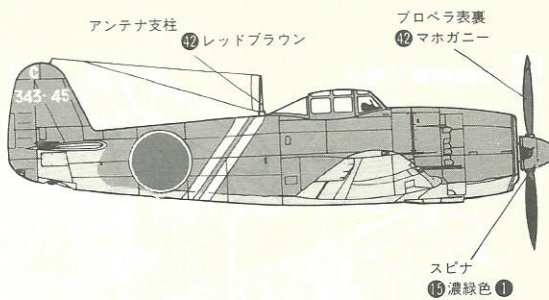
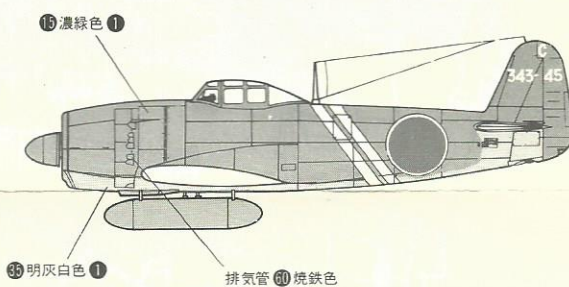
1 2 3 の上下面図

《マーキング及び塗装参考図》

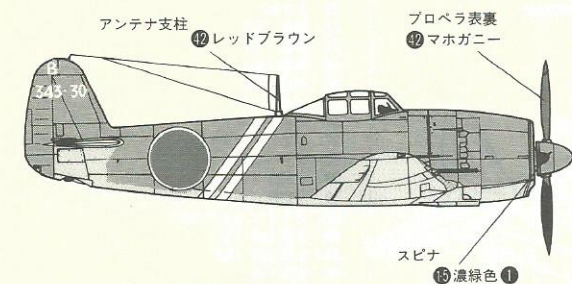
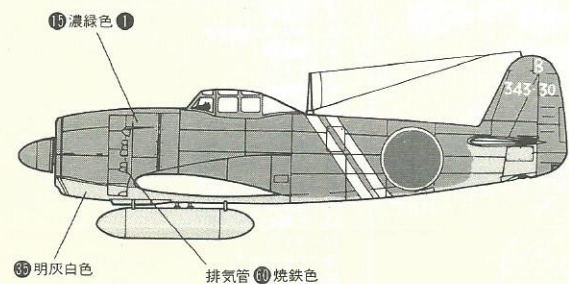
■ 第343海軍航空隊 第301飛行隊 菅野隊長機



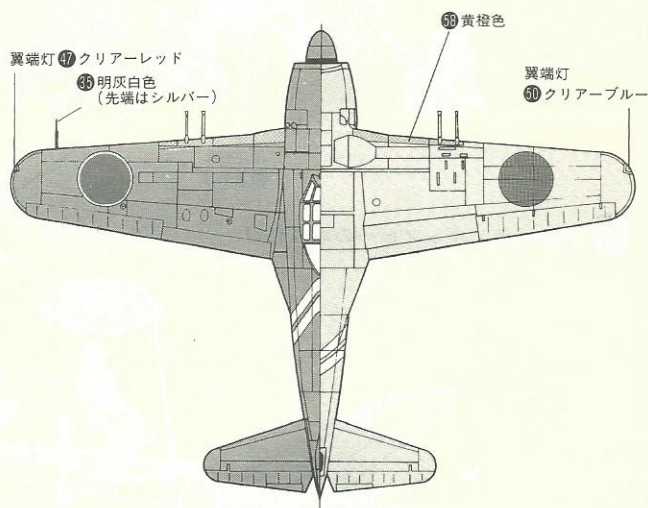
■ 第343海軍航空隊 第701飛行隊 鷺淵大尉機



■ 第343海軍航空隊 第407航空隊 林大尉機



■ 1 2 3 の上下面図



紫電改の塗装について

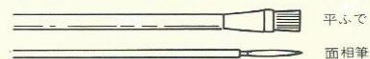
紫電改の塗装は、一般に量産機の場合、機体上面が濃緑色、下面が明灰白色というもので、プロペラは両面とも暗褐色、先端に一本の黄色の帯が入っていました。スピナはプロペラと同じ暗褐色が標準でしたが中には赤、白などで塗られたものもあったようです。この他アンテナ支柱は茶褐色、脚支柱は銀色、脚カバー内面や脚収納穴内及びコクピットは青竹色で塗られ計器板は黒または黒に近い暗緑色で塗られていました。

スライドマークのはり方

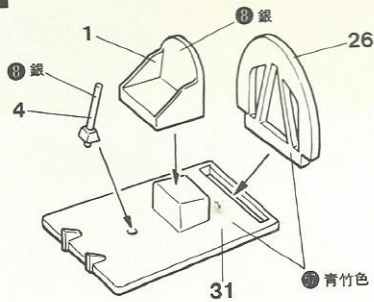
1. マークを台紙から切り抜き、まわりの透明な部分を切りとっておきます。
2. 水に20秒位浮かべてください。
3. マークを台紙からずらして所定の位置におき、台紙をずらして抜きとります。
4. マークの上からやわらかい布でおさえ、余分な水分と糊をおしだしてください。

エポカモデルカラー

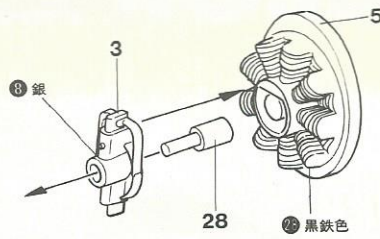
プラスチックモデルをより美しくするために各部品を塗装して下さい。①～⑳の番号はモデルカラーの番号です。筆は広い部分を塗る平筆と、小さな部分を塗る細筆を用意し、塗る部分によって使い分けましょう。



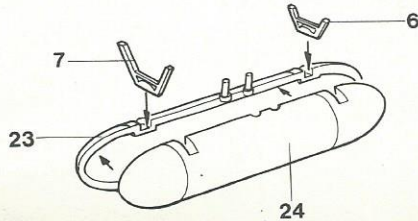
1 座席の組み立て



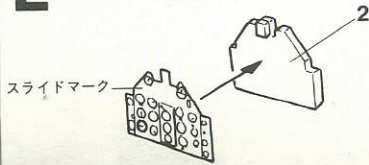
《エンジンの組み立て》



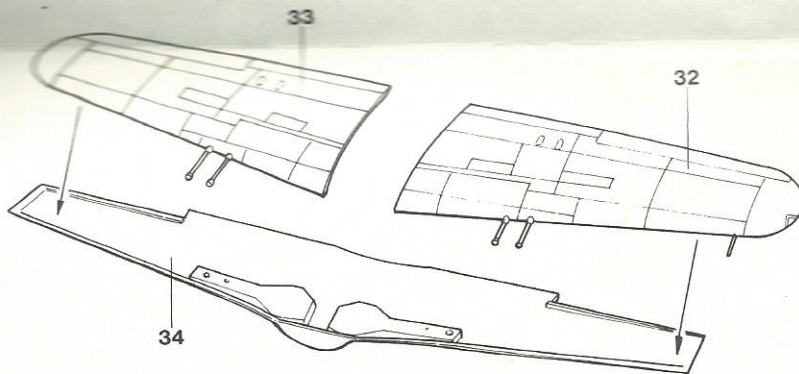
《増槽の組み立て》



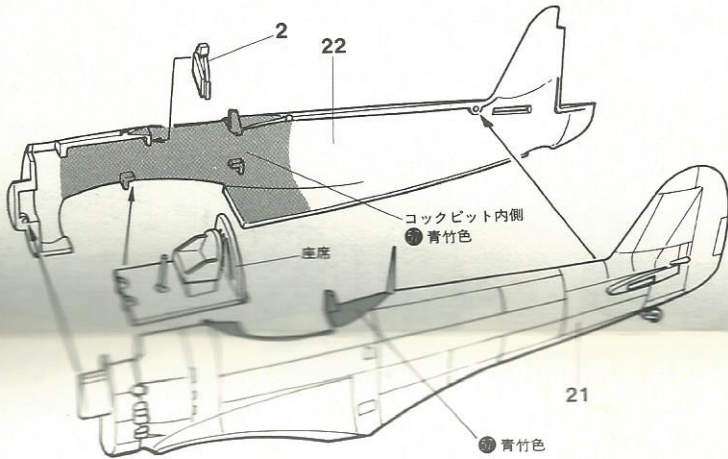
2 計器板の組み立て



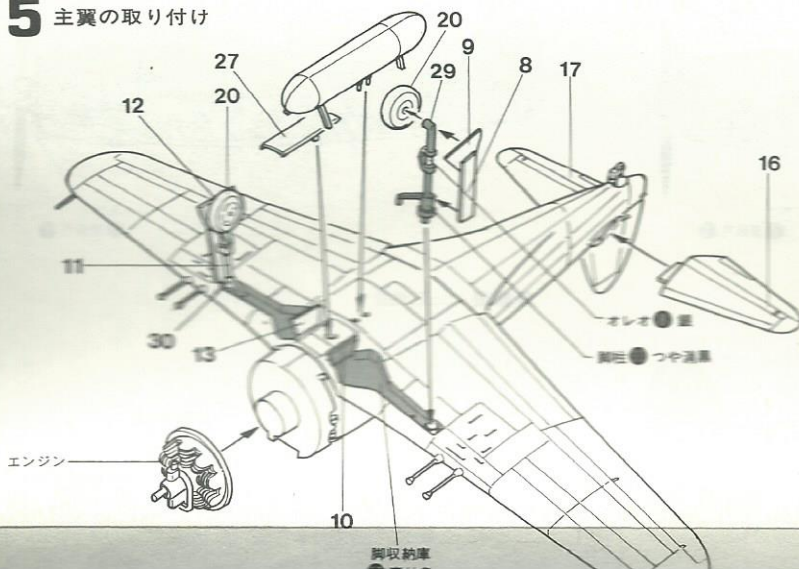
3 主翼の組み立て



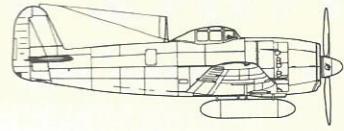
4 胴体の組み立て



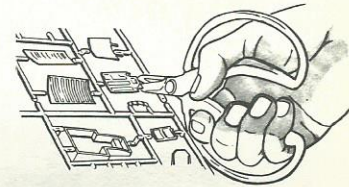
5 主翼の取り付け



紫電改



- ★くみだてるまえに
- 説明書をよく見て、指示に従って作ってください。
- 部品をランナーから切りはなす時はニッパー又は、カッターを使ってください。
- 接着剤は組み立てる部品の両方に少しづつぬって接着して下さい。
- 接着する前にセロテープ等で仮に組んで形をたしかめて下さい。



モテカカラー

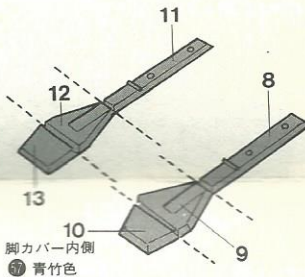
★モテカカラー

①-⑩の番号はモテカカラーの番号です。くみだてたらかならず色をぬってすばらしいモデルを作りましょう。

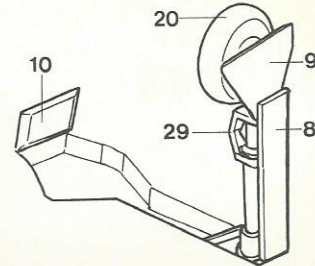
■パイロット塗装参考図



■主脚カバーの切りはなし

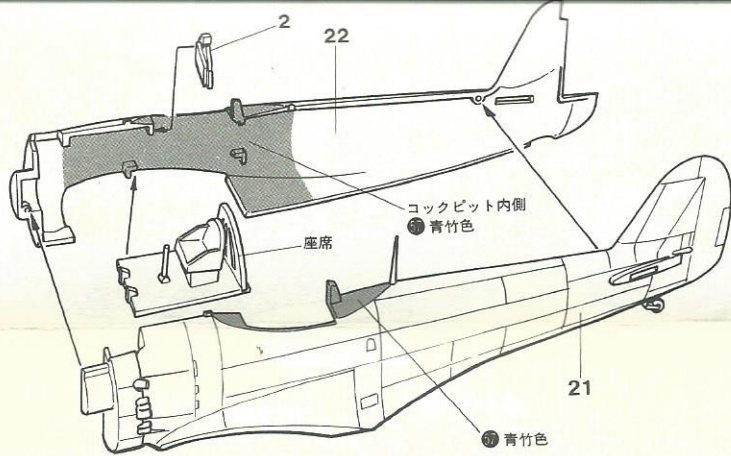


■主脚カバー取り付け位置

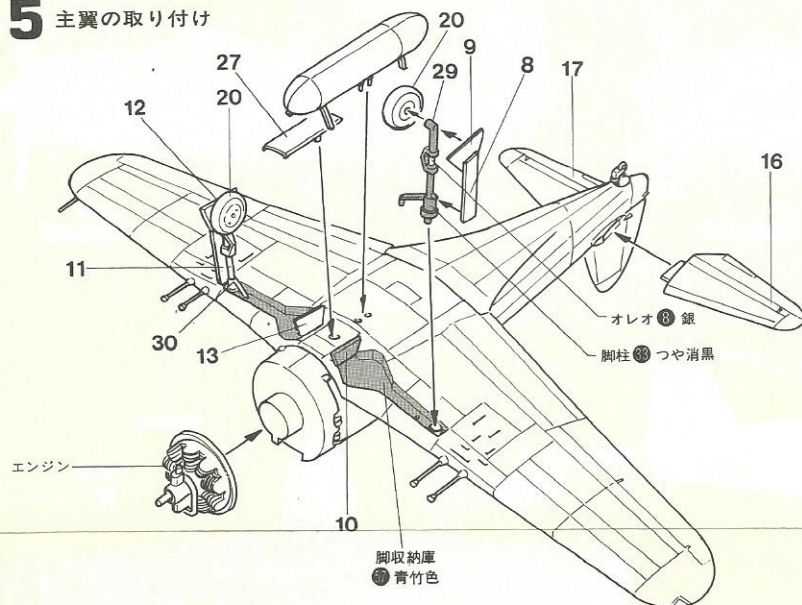


《部品番号および名称》

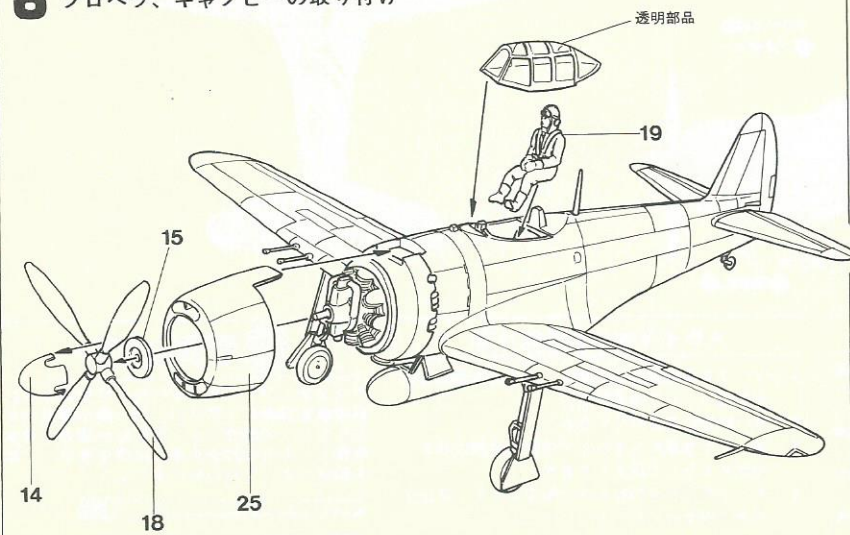
1. 座席
2. 計器板
3. エンジン調整器
4. 調整棒
5. エンジン
6. 増槽架 (A)
7. 増槽架 (B)
8. 主脚カバー (A)
9. 主脚カバー (B)
10. 主脚カバー (C)
11. 主脚カバー (D)
12. 主脚カバー (E)
13. 主脚カバー (F)
14. スピナ
15. スピナカバー



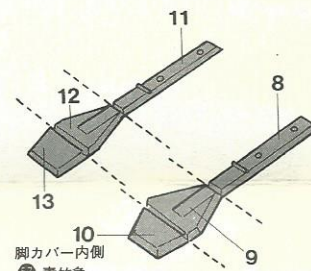
5 主翼の取り付け



6 プロペラ、キャノピーの取り付け

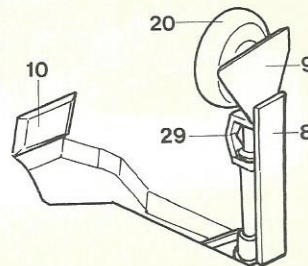


■主脚カバーの切りはなし



脚カバー内側
⑦ 青竹色

■主脚カバー取り付け位置



〈部品番号および名称〉

1. 座席
2. 計器板
3. エンジン調速器
4. 操縦桿
5. エンジン
6. 増槽架 (A)
7. 増槽架 (B)
8. 主脚カバー (A)
9. 主脚カバー (B)
10. 主脚カバー (C)
11. 主脚カバー (D)
12. 主脚カバー (E)
13. 主脚カバー (F)
14. スピナ
15. スピナカバー
16. 水平尾翼 (右)
17. 水平尾翼 (左)
18. プロペラ
19. パイロット
20. 主車輪
21. 胴体 (左)
22. 胴体 (右)
23. 増槽 (右)
24. 増槽 (左)
25. カウリング
26. バルクヘッド
27. エアインテイク
28. プロペラシャフト
29. 主脚柱 (右)
30. 主脚柱 (左)
31. コックピットフロア
32. 主翼上面 (左)
33. 主翼上面 (右)
34. 主翼下面
キャノピー (透明)

家庭用品品質表示法による検査済み表示
取扱い上の注意 1. 幼児の手の届かないところに保存し、
いたづらをしない様注意して下さい。
2. 火気に注意し換気をよくして下さい。
3. 故意に吸わない様注意して下さい。
表示者 SZ 3000 SZ 3006 SZ 5013